

なぜ今頃メールやタスク管理に再度取り組むのか？

日本マイクロソフト 畠山大有

「今さらメールやチャットの使い方なんて…」と思われる方も多いかもしれません。実際、20 年以上前から「デジタル化」という言葉はありましたが、ファイル共有やタスク管理ツールなども昔から存在します。ところが、いざ組織全体で生成 AI を活用しようとする、意外と“使えるデータ”が整っていないケースが多いのです。

私自身、Microsoft でデジタルツールを日常的に使いながら仕事をしていると、ファイル管理やナレッジ共有は当たり前だと錯覚しがちでした。ところが、実際に多くの企業や役場の皆さんとお話ししてみると、

- データがそもそも存在しない
- 社内で共有されていない
- 生成 AI に最適な形で蓄積されていない

といった問題に直面している組織がたくさんあるのです。

さらに、それらの課題を解決する第一歩として「データ化しておくこと」の重要性はわかっているにもかかわらず、忙しい業務の合間に“わざわざ”情報を整理・登録するのは大変です。そこでポイントになるのが、“普段の業務の流れ”を見直し、無理なく自然にメールやチャット、タスク管理ツールへ情報を蓄積できる仕組みをつくることです。

この研修では、大きく二つのことを学べます。

1. お仕事の生産性向上

- タスク漏れを防いで着実に業務を進める
- 情報をスムーズに共有し、無駄なやり取りを減らす
- 必要な時に必要な情報をすぐに取り出せる

2. 生成 AI 活用への準備

- 普段のやりとりをそのままデータ化して蓄積する
- 個人・組織それぞれに適したやり方で、情報活用を促進
- Microsoft 365 Copilot のようなツールと連動することで、効率的な情報検索やアイデア創出が可能になる

特別なシステムや大がかりな投資が必要かという点、必ずしもそうではありません。皆さんが普段使っているメールやチャット、ファイル共有の手順を少しずつ見直し、上手に組み合わせれば良いのです。実は、私もその一人です。私がどのように仕事をしているのか、具体的な事例を交えながらご紹介します。すると、きっと「こんなやり方なら無理なく続けられそう」というヒントを見つけていただけたと思います。

最終的には、無駄な残業を減らし、自分やご家族、ご友人、趣味のための時間をしっかり確保できる働き方を目指したいですね。ぜひこの研修を通じて、皆さん一人ひとりが日々の仕事に合わせた形でデジタルツールを使いこなし、将来的に AI の活用にまでつながる“情報の流れ”を構築してみませんか？



国内外での 300 社以上の IT プロジェクトにアーキテクト及びエンジニアとして関与して約 25 年の経験。業界初として事例化されたものには、フジテレビ、楽天、毎日新聞、日経新聞、富士フィルム、カルビー、コマツなどがある。

また、東芝、SONY、NTT-Data、NextScape など 50 社以上のパートナーと、ソリューション製品・サービスの開発・市場展開も行う。

そこでの学びを、TechEd、de:code、TechSummit、InterBEE など基調講演を含む場で 400 回以上のセッション登壇。

また、書籍・雑誌や Blog 執筆、サンプルコードの公開などで社会に Feedback 中。セッションだけでなく、100 回以上のハンズオン、ハッカソンのファシリテーションも行っている。